



巡礼その六十三 北海道2

2023年6月5日

アイヌ文化を巡る旅の二回目として阿寒湖、旭川へ行く。前回白老、二風谷を回ったのでアイヌ文化の一部が理解できた。

4時30分起床、5時15分マイカーで出発。7時45分の飛行機なので6時出発でも良いのだが、首都高羽田線が工事のため湾岸線も渋滞が予測されるので少し早めに出発。渋滞はなく30分で着いた。空港は結構人がいる。時間はたっぷりあるのでサンドウィッチを買って食べる。なんと釧路行きはバスで行く。また飛行機も変わって3人掛けになっていた。釧路空港はガラス張りのモダンな空港である。レンタカーはワゴン車に乗って空港のすぐ前にある日産レンタカーでノートを借りる。とても良い車で燃費がすごく良い。釧路博物館でアイヌの展示物を見たかったのであるが休館日であった。ここから弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館を目指す。この季節の北海道の道路は樹木がとても綺麗で道の左右には大きなフキとシダが定番である。当然町に入るまでコンビニや商店、レストラン、ガソリンスタンドは無い。周囲は牧場が多くなる。

1時間半で弟子屈町に入る。お昼でお腹が空いたので「弟子屈ラーメン」があったので入る。12時前なのに駐車場はほぼ埋まっている。中に入ると結構混んでいて相席になる。弟子屈ラーメンとギョウジャニンニク入り餃子を食べる。とても美味しい。道路標識に摩周湖が近いと出たので、まず摩周湖に行ってみる。駐車場があり、ここから眺める。小さいがとても神秘的なブルーの湖である。ここから弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館を目指す。屈斜路湖に入るとすぐに弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館はある。湖のほとりにあり、芝生で湖につながっている。すぐに子グマの檻が目につく。周りはライラックやツツジが咲いていて美しい。民族資料館はモダンな建物で入り口の前にコンクリートの大きな柱が7本立っている。タイのスコタイやアユタヤの寺院のようである。見学者は我々だけである。展示物を見る。面白いのは熊の剥製と等身大のアイヌの老人との戦いを再現しているコーナーである。とても迫力がある。ここでアイヌの「チロンヌプカムイ イオマンテ」のビデオを見る。ビデオのイオマンテは子グマではなく、子ギツネである。子供の頃から

何年も愛情を持って飼っているキタキツネを神の国に返す。とても貴重なビデオで勉強になった。屈斜路湖も非常に美しい湖である。まだ2時なので阿寒湖へ行き、遊覧船に乗ることにする。船着き場ではフライフィッシングをしている人たちがいる。阿寒湖は複雑に入り組んでとても細くなっているのでジャングルクルーズみたいで面白い。水も綺麗である。船は小さな島にあるマリモセンターに寄る。下船してみんなでマリモを見る。とても大きいボーリングのボールのようなものもある。島ではエゾクロユリが咲いていた。栈橋に戻り今夜の宿「カムイの湯ラビスタ阿寒川」へ行く。とても美しい清流阿寒川のすぐ横に立っており、エゾジカもウロウロしている。部屋も広く何と言っても窓越しの阿寒川が素晴らしい。風呂も檜風呂で小さいが源泉掛け流しである。すぐに大浴場へ行く。とても綺麗でサウナがついていて露天風呂も川沿いで素晴らしい。打たせ湯があるのが嬉しい。サウナに入り、水風呂、打たせ湯、露天風呂と繰り返す。夕食は5時半なのですぐに食堂へ行く。ここも「星のや」のポロトと同じで二人でカウンターに並んで外（阿寒川）を見ながら食べるようになっている。リゾートはこの方が良い。ホテルのサービスとしてビール1本、ウーロン茶1本がついている。事前に毛ガニを頼んでおいた。小さいが味噌がたっぷり入っていて美味しい。前菜、お椀、お造り、（道産牛の陶板焼き）、コタン鍋（ブイヤベース仕立て）、面白いのがそのあと好きなものが選べる。1）白身魚とタラの芽の天ぷら、2）フォアグラ茶碗蒸し、3）アナゴ柳川、4）ラムチョップ香草焼き、5）小鉢三種から選ぶがいくつ選んでも良い。私は迷わずラムチョップにした。ご飯も選べる1）ホッキ貝のカレー、2）チーズのカレー、3）雑炊、ホッキ貝のカレーにした。面白いのはカレーにはレモンティーが付く。なぜなのかわからない。最後は苺プリンとグリンピース大福である。ここで面白いことがあった。サービスをする女の子が名刺を置く。その名刺には出身とか、経歴とか、趣味が書いてある。最後にふと見ると経歴のところインドと三重県で働いたと書いてある。すぐに呼んでインドの話で盛り上がった。部屋に戻り豆から挽くコーヒー（絶品）を飲んで、もう一度風呂に行く。露天の一人用の木の桶の風呂に入っていたら、外人が変な顔をしてお風呂が臭くないかと言う。また湯の出口に黄色く成分が固まっているのを、これは汚くないか、と訪ねてくる。変な外人だと思い、これが温泉と言うものだと説明した。部屋に戻り9時に寝る。

6月6日

5時起床、お風呂へ行く。サウナ、水風呂2回、打たせ湯、露天に入る。朝食は7時で昨日、洋食を選んでおいた。スクランブルとフライドポテト、グラタン、ベーコン、白身魚のフライ、野菜サラダ、コーンスープ、パンはクロワッサン、チョコレートパン、フォカッチャである。今日もエゾジカがいる。今日

は阿寒湖アイヌ文化体験半日コースを予約してある。集合は10時20分であるが9時半に湖畔について散策をしていたら、妻がお腹の調子が良くないというので、ホテルに戻る。元気になったので出発、10時10分についた。20分にガイドのアイヌの方が民族衣装を着て出発。山に入るときには必ず二股になった杖を持っていくのがアイヌの基本なので私たちも杖を借りる。湖の周りの森の中に入り、アイヌの生活に必要な樹木を説明してくれる。湖から吹いてくる風が気持ち良い。聖山雄阿寒岳もよく見える。植物の種類は山中湖に近い。途中で伝統楽器のムックリ（竹を振動させて音を出す）をもらい、練習する。とても単純なのだがなかなか良い音が出ない。約一時間半森の中を散策する。12時に戻り、アイヌコタンにある「ポロンノ」という食堂でお昼ご飯を食べる。これは阿寒湖アイヌ文化体験半日コースについている。エゾシカ肉やお芋、人参、山菜、キノコの入ったオハウ（出汁は塩と昆布だけ）とイナキビやニコロ豆などが入ったアマム（ご飯）、シャケの塩辛のメフン、鹿肉とマスのルイベ、カボチャとトウモロコシ、シケレベの実が入ったラタスケプ、昆布餅、イタドリ茶が出る。1時からアイヌコタンにあるオンネチセという建物で私たちだけのためのアイヌ歓迎の儀式を行ってくれる。ポンチセの中に炉があり火が焚かれている。ここにアイヌの長老が座り、炉の反対側に我々が座り、長老が感謝のカムイノミを行う。私たちも簡単に儀式の所作を教えてもらう。とても神聖な気持ちになる。アイヌはいつもカムイに感謝して事あるごとにカムイノミを行う。オンネチセは観光客がムックリ（口琴）づくり、刺繍、木彫が体験できる。私たちのコースにはペンダント作りがついている。1時間で木彫りのペンダントに模様を彫る。デザインは自分で描く。とても難しい。以上が半日コースでとても充実している。終了時間が2時半なのでその後阿寒湖アイヌシアター〈イコロ〉で行われる古式舞踊と現代舞踊とデジタルアートを組み合わせた「ロストカムイ」にちょうど間に合うので見に行く。真ん中の一番前で見る。物語は「アイヌは、カムイ（神）の世界とアイヌの世界、ふたつの世界があると信じています。動物や植物、自然現象、この世のあらゆるものに魂が宿ると考え、すべてがカムイたる存在として、ともに生きる家族として、お互いを尊重してきました。カムイの中でも、エゾオオカミは別格。狩りがうまく、アイヌにとって憧れの存在だったエゾオオカミは、「狩りをする神」ホロケウカムイと呼ばれています。しかし、1879年の大雪による影響で、エゾオオカミの食料であったエゾシカが激減。やむなく、本州から渡ってきた開拓者たちの家畜を襲い、邪魔者にされ、ばら撒かれた毒入りの鹿肉を口に。1882年ころには、ハンターへの高額な報奨金制度も手伝い、6、7年で2,000頭から3,000頭が駆除・毒殺され、

エゾオオカミは絶滅に追い込まれました。カムイは、怒りや過ちを夢で知らせるといいます。失われたカムイたちは、何を想い、何を語るのか。役割なく天から下ろされたものは何ひとつありません。」というものです。とても感動しました。アイヌの古式舞踊は素晴らしい。ホテルに戻り風呂に入り5時半に夕食です。前菜、お椀（ホッケつみれ）、お造り、めぬけの西京焼き、道産牛の溶岩焼き、あん肝、ホタテの釜飯、味噌汁、リンゴ、キウイである。部屋に戻り、今日はこれから湖の湖畔でナイトウォーク「カムイルミナ」というイベントに参加する。8時半からで10分前に棧橋に集合である。時間（10分）ごとにグループでスタートする。まず入り口でアイヌの杖をモチーフにした「リズムスティック」を借りる。この杖から音楽が流れ、その場所で色々な色に光る。また下部はトーチになっていて真っ暗な森の道を照らす。一周真っ暗な湖の湖畔の森の遊歩道を歩き、所々でプロジェクションマッピングとシノグラフィー（光と音の舞台装置）、そこで説明を聞く。それに同調して杖が光り、音楽が出る。なかなか面白い企画である。物語は飢えに苦しんでいた人間界を救うためフクロウと小鳥のカケスが活躍するという阿寒湖に伝わるアイヌ伝説である。湖が美しく、月や星が出ていれば最高である。ホテルに戻り部屋の風呂に入り寝る。部屋の風呂も源泉掛け流しで良い。まるまるアイヌの1日であった。すぐに寝る。

6月7日

5時に風呂へ行く。今日はサウナには入らず打たせ湯と露天でゆっくりする。7時に朝食、今日も洋食にする。食後にもう一度部屋の風呂に入り、8時にチェックアウトする。今日は大変である。ここから北見に寄って旭川まで250km以上あり4時間半です。まずは北見に向かって出発。途中「クマヤキ」で有名な「道の駅あいおい」によるが休みであった。9時半に北見の北見ハッカ記念館へ着く。ここは古い建物を見に来た。入館するとハッカの説明をしてくれた。なんと日本のハッカは昭和の中ごろまで世界一の輸出国であった。合成のハッカが出てきて日本のハッカは終わった。隣には工場がありとても良い匂いがしてくる。ここでハッカ製品を買う。次も古い洋風建築のピアソン記念館へ行く。ピアソンは宣教師で記念館は自宅である。その自宅を設計したのがヴォーリスである。北見の小高い丘に立っていて周りは公園でとても太い幹の大きな木が何本も記念館を取り囲んでいる。とても良い雰囲気である。自宅なのでたくさんの窓（上げ下げ窓）がありそこからの景色が素晴らしい。ここから30分ほどで「道の駅温根湯温泉」がある。そこでお昼を食べることにする。ここには「北の大地の水族館」と「キタキツネ牧場」がある。先に「キタキツネ牧場」へ行く。休館しているような建物で、チケットを買って入

ると5組ぐらいの観光客がいた。キタキツネは放し飼いにされているがほとんど寝ている。キタキツネよりお土産コーナーの面白かった。なんとサンゴ製品から、宝石、ジャージまで売っている。駅の周りにある食堂で豚丼とモリのセットを食べる。豚丼が美味しい。ちょうど12なので道の駅の真ん中にある大きな時計台からからくり人形が出てきた。アイヌのおじいさんと女の子の楽器隊である。とても面白い。道の駅の横にあるのが「北の大地の水族館」でここは溪流の魚、イトウ、オシロコマ、など北海道独特の魚が大きな水槽で泳いでいる。なんと1mを越えるイトウが20匹もいる。見応えがある。いよいよ旭川まで200kmのロングドライブである。車のほとんど走っていない国道を延々走る。新緑が美しい。やがて峠を越えると遠くに大雪山が見えてくる。まだ雪をかぶっている。まるで欧米のように山々と谷と川が美しい風景を織りなす。まだ半分である。ここから少し行くと旭川紋別自動車道の入り口があり、これに乗って道央道に接続する。旭川で降りてまずは「川村力子トアイヌ記念館」へ行く。現地では館の前を掘り返して工事をしており、入り口にたどり着けない。休館かと思ったが開館になっているので工事の人をお願いして通してもらい中に入る。つまり記念館は建て替えられ建物は終わったが入り口の周りは今工事しているのである。内部はまだ完全に整理されてはいないが、コレクションは豊富である。特に2階の熊の彫り物のコレクションには圧倒される。工事しているところと少し離れたところにチセが残っている。ちゃんと神窓の外に祭壇がある。今日の宿は旭川駅前のビジネスホテルアマネク旭川である。15階にチェックインして17階にある大浴場へ行く。外に一人用の露天風呂がある。誰もいないのでゆっくり入る。夕食は旭川で一番有名な「ジンギスカン大黒屋」である。もちろん予約はできない。歩いて5時30分についたがすでに待っている人たちが15~6組いる。名前を書いて20分ぐらい待つと呼ばれ中に入る。案内された席は畳で私たちは座れないので椅子席か掘りごたつの席が空くまで待つと伝える。すぐに掘りごたつの席に案内され一安心。とりあえず肩ロースのハーブ漬け、リブロース、ランプ、しびれ、タン、ソーセージを頼む。オニオントマトサラダとアーモンド大根サラダも頼む。肩ロースとソーセージは美味しいがそのほかは肉の処理が良くなく、肉も硬い。さらにタレも美味しくない。なんでこんなに人気があるのかわからない。ついこのあいだ行った岩手の遠野のジンギスカンは最高であった。東京でも自宅のそばの「黒ひつじ」、千葉の「マザー牧場」のジンギスカンの方が断然美味しい。もう行く気がしない。ジンギスカン好きには残念であった。ホテルに戻りフロントでコーヒーを飲もうと思ったがマシンの清掃中で15分待ってくださいと言われた。15分待って2杯飲んで部屋に戻り寝る。

6月8日

6時に風呂に行き、朝食はついていないので7時チェックアウトする。駅前の通りはとても綺麗な並木が続く整備された道が先が見えないほど続く。道にはオブジェやベンチがたくさんあり道幅も広い。ホテルの斜め前にコメダ珈琲があるのでそこでモーニングを食べる。8時出発して郊外にあるアイヌの聖地「神居古潭」へ行く。天気は快晴で暑くなりそうである。石狩川沿いに走っていくと旧道に入る道がある。そこで車と停めて歩いて石狩川にかかっている木造の神居大橋を渡る。この辺一帯がアイヌの聖地でここは川が急カーブしているところである。橋を渡ると階段がありそこを登ると明治35年に設置された旧神居古潭駅舎が残っている。トイレも当時のもの。駅構内には蒸気機関車3両 29638、D51 6、C57 201 が静態保存されている。SL マニアにはたまらないであろう。石狩川にはアイヌの聖地が沢山ある。次はここにおいてあるパンフレットに載っていた明治20年に建てられた上川郡農作試験所事務所棟(忠別太駅通第一美英舎)へ行ってみる。内部は入れないので外側だけ写す。「アイヌ文化の森 伝承のコタン」も郊外にあり、石狩川の支流オサラッペ川にある。川の手前の駐車場に停めて徒歩で橋を渡って対岸へ行くと、そこは嵐山公園センターで北邦野草園と「アイヌ文化の森 伝承のコタン」がある。チセが3棟あり、保存庫、男女別便所が建てられている。この時期はサクラソウが満開でチセの周りを彩っている。嵐山公園センターの中にもアイヌ関係の展示物が少しある。市内に戻り古い木造建築を見に行く。旭川市彫刻美術館は1902年に陸軍の将校たちのための施設として建てられた。また天皇や皇族の宿泊設備としても使用された。隣には旧竹村病院の玄関を飾っていた塔屋部分が移築されている。この病院は1901年に建てられた。とても不思議な建物である。次は北海道護国神社にある平成館へ行く。陸軍第七師団の北鎮兵事記念館として1935年に建てられ地上2階地下一階である。伝統的な社寺建築様式と当時の近代建築を用いた「帝冠様式」で建造された。次は旭川駅のすぐそばにある上川倉庫群へ行く。煉瓦造りの、一号倉庫、二号倉庫、三号倉庫、八号倉庫、十号倉庫、十一号倉庫が残されていて、二号倉庫はリハーサルホール、三号倉庫は旭川市民ギャラリー、十号倉庫はデザインギャラリー、十一号倉庫は大雪地ビール館として利用されている。ここだけ違った空間になっている。お昼だったので十一号倉庫の大雪地ビール館へ入り、ジンギスカン定食を食べる。なかなか美味しい。最後は旭川市博物館へ行く。上層・下層の2層構造になっており、上層階には北海道を代表する先住民であるアイヌの人々やそれ以前の古代の人々、明治以降屯田兵として入植してきた和人たちなど各時代の住居を復元移築している。下層階では「北国の自然と人間のかかわり」をメインテーマに自然と人文系の資料を展示。吹き抜けになっていて中央の空中に大きな木が3本立っている。根っこもついてい

る。間にはヒグマもいる。面白い作りである。上川アイヌの展示物はとても充実している。この後はまだ時間がたっぷりあるのでここから10分ほどのところにあるスーパー銭湯神楽に行く。低温と高温のサウナがあり、内風呂が5種類、露天と一人用の壺の風呂が3つある。サウナに入ったり風呂に入ったり十分楽しんで氷を食べる。ここから空港まで30分、レンタカーを返して6時に空港へ。フードコートでホルモン炒めとチキンカレーを食べて羽田へ。